Japanese Association of Educational Psychology

313　精薄児の行動現的類象型（1）：①津守真・②中村節子（愛育研究所）**・足立寿美**（お茶の水女子大学）

本研究は精神薄弱児の行動現象的類型化を試みたものである。方法としては行動観察により，くわしく行動観察記録をとり，後に行動1単位ずつ，予め定めた行動記号にしたがって分類した。時間は15秒を1単位とし，1回の観察時間15分，1人4回合計1時間の観察を行なった。とりあげた行動はできるだけ精薄児の特性を現わしやすいものを帰納的に選んだ。観察記録者間の記録の一致度および行動分類評価の一致度は，信頼できる程度に高いものである。また，このような方法でとりえた行動現象的類型と，教育担当者による行動評定との関係および，事例研究による個人的特徴との関係について検討する。

314　同上（2）

前述の行動観察によって得られた行動現象的類型と，精神遅滞の原因論的分類および知能程度との関係について検討する。今回の研究の被験児は，CA3～7才にわたる精薄幼児で，大部分のIQは60以下である。行動評価の項目は次の例に示すようなものである。Aa　行動で働らきかける。Ar　ことばで命令しまたはさそいかける。Aa＋　行動で働らきかけて相手が反応する。Aa－　行動で働らきかけて相手が反応しない。Agph　身体的に攻撃する。Agr　言語的に攻撃する。Ago　ものに対して攻撃する。Ⓐ　衝動的に攻撃する。r　相手の命令に従う。ⓡ　全体にいわれることに従がう。△　強制的にやらされてする。以下省略

314の2　精神薄弱児の類型学的研究（その3）—知的行動の類型的把握—：伊藤隆二（東京大学）

前回までは精神薄弱児の類型学的研究としての内因性・外因性精薄児の性格，知的行動について研究を重ねてきたが，今回は病因とは別の知的行動の特性からの類型的把握を試みた。つまり，同一CA，同一MAの精薄児に於て，知的行動（課題解決事態に於ける行動）に質的差異及び類似性が認められることから，その特に差異の発生的機序を探ろうとした。方法は第1部は課題解決学習に於ける転換学習に関するもの，第2部は生産的思考に関するもので，第1部では先行学習の訓練量の効果の有無，第2部では洞察行動の様相から研究し，いくつかの類型的把握がなされた。これはさらに教育実践による行動の変容を問題にする基礎的資料となるものである。

315　精神薄弱児の類型的研究（I）　—病因論を中心に—：①山本普（北海道大学）**・②森上史朗**（北海道教育研究所）

精神薄弱児を内因および外因に分けて，その諸特性を明らかにする試みは，すでに従前からおこなわれているところである。われわれは，これを発生時期的，病因的により詳細に類型化し，その臨床的症状ならびに心理的特性を明らかにせんとした。そのIにおいては主として類型化の基礎となる発生論，病因論についてのべる。

316　同上（II）—心理的特性を中心に—

精神薄弱児を発生時期的，病因的に類型化し，その類型にもとづく心理的諸特性を明らかにせんとした。

類型の基礎となる病因論および臨床的症状についてはそのIで論及したが，ここでは知能検査，性格調査，社会性調査，運動能力調査等の結果についてのべる。

317　精神薄弱児に対するGABAの効果についての心理学的研究（I）—ウィスク—：①東正・③末岡一伯・④木村謙二（北海道大学）**・②北島象司**（北海道教育研究所）

Double-Blind-system によるGABA投与実験の結果をWISC資料に基づいて行った。被験者は，実験群30名，統制群32名で，平均IQは夫々60.3（SD＝11.8），62.0（SD＝12.2），CA範囲は両群共7才から17才までで，又性別，類型別の分布も大体同じである。効果測定の方法は，(1)平均値による比較，(2)個別的変動に基づく頻度分析，とを用いた。結果：平均値による比較でも，又個別的変動の頻度分析においても，実験群は統制群に比べて投薬前後（期間7ケ月）におけるIQの有意な上昇を示した。又IQ水準別の分析では，高IQ

NII-Electronic Library Service